

## 1988 The Pittsburgh Conference &amp; Exposition 報告

1988 The Pittsburgh Conference & Expositionは、昨年迄行なわれていたニュージャージー州のアトランティックシティから、会場を移し、ルイジアナ州のニューオリンズで2月22日から25日迄開催された。

The Pittsburgh Conference & Expositionは、各種分析機器、分析手法に関連した研究発表と、分析機器、計測機器等の大展示会とが同時に行なわれる、国際的な催しである。

今年の発表件数は1345件、発表者の国籍は30ヶ国にも及ぶ。また、展示の出品社数は800社を越え、日本で催される分析機器展や科学機器展と比較すると、5～6倍以上の規模と思われる。

ConferenceはAwardsを始め各分析手法や応用分野により40程度のセクションに分けられ行なわれる。この中で筆者の聴いた熱測定に関連する発表としては、次のものがあつた。

危険物質のDSC測定、DSCによる等温反応速度解析、動的粘弾性測定に関する報告2件、熱硬化性樹脂の複素誘電率測定とDSCとの比較、熱分解GC/MSによる有機物の分解挙動の解析2件、反応熱熱量計によるポリマー重合反応への応用。

展示に関しては、今年特に注目を集めるといった新規のものは見受けられなかったが、FT-IRのメーカーの多くが、GCやTGとの接続を積極的に展示しているのが印象に残つた。今後日本においても複合機のニーズが広まるのではないかと思う。

分析手法全体から見ると熱測定の分野は必ずしも大きくはないが、着実に進歩し広がっている印象を受けた。

なお来年のThe Pittsburgh Conference & Expositionはジョージア州アトランタで開催の予定である。

(セイコー電子工業㈱ 木下良一)

## 『熱測定』編集委員会

(委員長)高橋洋一

(編集委員)東原秀和、寺井隆幸、畠山立子、馬越 淳、松井恒雄、松尾隆祐、横川晴美

(地域編集委員)

高見沢楳一郎、坂本尚史、松下和正、古市隆三郎、寺本芳彦

熱測定 Vol.15, No.2, 1988 昭和63年4月25日印刷  
昭和52年5月27日 第4種 昭和63年4月30日発行  
郵便物(学術刊行物)認可

発行人 日本熱測定学会 村川 順之

〒113 東京都文京区湯島2-16-13 齊藤ビル  
電話 03-815-8514 振替 東京9-110303